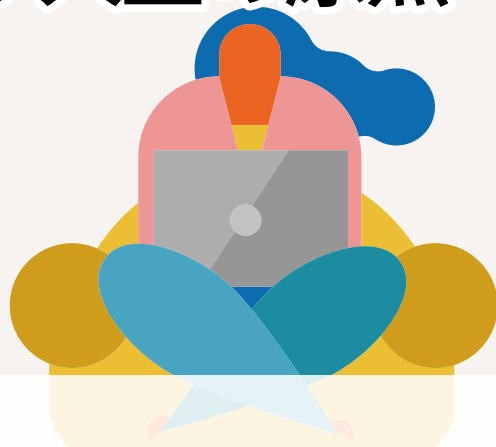


# 私のコンピューティング人生の原点

## 編集にあたって

金子 格 | 一橋大学    和田 勉 | 長野大学



現在 DX 人材の不足が日本の産業界で大きな課題となっている。優秀な人材は一朝一夕では育たない。またこれは社会全体の基礎的な技術力が低下している、という問題でもあり、単に労働力を海外から調達すれば済む問題とすべきではないだろう。

問題解決にはまず原因を特定することが肝心である。今日人材が不足しているのは、十分な数の人材が育ってこなかったことによるが、その原因は何だろう。今日情報処理のさまざまな分野で活躍する人々が、どのようにして情報処理の専門家になったのか。それをまず確認することが、この問題を解決するための基礎的な資料となるはずである。

というふうなまじめに問題意識を持ったわけでは、まったくないのですが、単純にそういえばみなさんどうして情報処理の分野に進んだのですかね？と問いかけたところ、みなさまそこに興味があるようなので、今回の特集を企画いたしました。

もちろん執筆者の先生方の中にはその分野で活躍する有名な先生方も多く含まれていますが、有名な方をそろえるということよりも、できるだけいろいろな分野、幅広い世代、いろんなバックグラウンドをお持ちの研究者、専門家の皆様にお声がけをして、快く執筆を引き受けていただきました。

記事の感想はさまざまになると予想しています。すでにベテランの方に、「あ～自分も同じような経

験をしたなあ」と思い返していただいたり、若手の方には、「時代によってずいぶん違うものだ」と実感してもらったり、これから情報技術分野を目指す方々には、「案外なんとかなるものなのだな」と思っていたいただいたり、いろいろな読み方があると思います。多種多様な分野を取り揃えましたので、どんな方でも1つくらいは興味を持って読める記事があるのではないかと思います。それぞれに楽しんで、あるいは参考にいただければ幸いです。

もちろん「原点」は執筆者ごとに違いますが、しかし恐らく「カリキュラムで情報分野の学習が課せられていたので一生懸命丸暗記しただけ」という方はいないでしょう（最初は義務的に学んだがそれがきっかけになってその後夢中になって……という方はいるかもしれませんが）。もちろん大学でも小中高でも工夫して情報分野の教育内容を用意しており、ともかくまずすべての学生・生徒にそれを学ぶ機会を持ってもらうことは重要なことなのですが、学ぶ立場の若い人は、それを受動的に学ぶことにとどまらず、この特集の記事に並ぶ記事が20年後30年後……に書けるような、その人なりの「原点」を作っていってほしいと思います。

10代の育成から始めると中堅に育つまでに30年ほどかかりますが、もちろんこの小特集をDX人材の育成に役立てることもできるでしょう。根本的な対策には近道はないのです。がんばりましょう。

(2024年7月20日)

## INDEX

- 1 OSなしディスクなしメモリ 8KBの「ミニコン」に  
コンピュータ占いプログラムをアセンブリ言語で書いた話— 1975年  
和田 勉（長野大学）
- 2 MML コンパイラからはじまるプログラマー人生  
クジラ飛行機（くじらはんど）
- 3 あこがれから現実に～人との出会い～  
高橋尚子（國學院大學）
- 4 ものづくりとコンピュータ  
五十嵐悠紀（お茶の水女子大学）
- 5 機械学習と自然言語処理  
岡 佑依（NTT 人間情報研究所）
- 6 自作 LISP マシンの怪  
金子 格（一橋大学）
- 7 音大生が情報技術分野に目覚めたとき  
太田智美（大阪音楽大学）
- 8 研究者の原点～電卓・小型コンピュータとともに成長した若年時代  
塚本昌彦（神戸大学）
- 9 早とちりデジタルコミック挑戦記—早すぎたデジタルマンガへの取り組み—  
すがやみつる（マンガ家）
- 10 Computers & Communications に導かれて  
袖美樹子（新居浜工業高等専門学校）
- 11 人生の意味のエンジニアリング  
畑田裕二（東京大学）
- 12 データ保護分野の弁護士の作り方  
板倉陽一郎（ひかり総合法律事務所）